



“馬は馬方、餅は餅屋、情報はマック”

THE MAC JOURNAL

三菱商事 アグリサービス株式会社

2009年12月9日発行ラインナップ

- ・いわ銀GAP導入セミナー開催
- ・遠めがね
- ・舟形マッシュルーム ダブル受賞



いわ銀GAP導入セミナー開催

12月2日、岩手銀行と日本GAP協会、三菱商事東北支社の共催でGAP導入セミナーが開催された。岩手県内の農業生産法人、大規模農業生産者、いわて生協、農業・食品関連企業、三菱商事東北支社、関連企業など総勢54名の参加があった。岩手銀行は、認定農業者向けに運転資金・設備資金として、無担保ローン“（アイ）の絆 あぐりサポート”を勧めている。県内に住所を有し2期以上の決算と農業所得の申告を行っている農業者、法人が対象である。無担保、連帯保証人は、法人：代表者1名、個人事業主：原則不要で、0.1～0.2%の優遇金利である（申込・ご相談は岩手銀行窓口迄）。このように地方銀行が農業者に融資を実施しているケースは、当紙でも既報の通りであるが、その際農業者の農場管理がしっかり出来ているか？がポイントになる。JGAPは、農場管理を第三者が審査し認証する仕組みがある。信頼される農場として、農場の差別化に繋がり、銀行からの信用も得られやすい。



当社上杉社長（日本GAP協会副理事長）の「JGAPと農商工連携」、続いて株式会社Domo あおもり（農業生産法人）長利社長の「GAP導入への道」と題しての講演があった。講演後、農業生産者が農産物を持ち寄り、ローソン、小岩井農牧等との情報交換会も開かれ大いに盛り上がった。当社社長は、生産工程管理に基づく品質保証を狙いとするJGAP（日本版GAP）について、「消費者や食品加工・流通業者の不安を減らすことが可能なビジネスツール」として紹介した。気候風土、収益

（次ページへ続く）

遠めがね

今年も後残すこと4週間となり、この1年間を振り返りながら、来年への気持ちを新たにす時期となりました。肥料業界においては、殆どの肥料メーカーは素晴らしい3月決算を発表しましたが、肥料製品の出荷は在庫対策並びに価格先安感から極めて緩慢な動きに終始し、前年とは全く異なった様相となりました。食品流通の分野では、消費者の節約志向からコメ、野菜、果物など主要農産物の消費が振るわず、店頭価格は低迷を続けた年でもあり、農家所得ばかりでなく小売業の業績にも大きな影を落としております。一方では、マスコミの農業番組が多かったこともあり、農業に対する国民の関心が高まりました。また、政策面でも、戦後60年の農政の支柱でもあった農地法の大改正が国会を通り、誰でもが農業をできることになりました。このように、先行きの見通しがつけにくい状況ではありますが、農業所得保障制度の導入、企業の農業参入、農商工連携の促進、医農連携への挑戦、植物工場における秒針分歩の技術開発、食の安全を科学するJGAP、HACCPの普及、遺伝子組み換え技術を応用した新品種の誕生、細胞を長期間壊さない冷凍保存技術の進歩などの農業産業化への取組みが進む一方、大規模農業化、若年層の農業就業、農業経営の一步でもある直売所の増加など明るい材料も出現しております。新たな時代は、種子革命、精密農業、農業の六次産業化の三つを軸に展開していくものと思われま。肥料業界はこの三つに接点をもてる潜在能力を持ち合わせております。“ちょっと先を行く”気持ちで来年の戦略を練りたいものです。

(前ページより続く)

性などのハンディを背負った農業にJGAPは効果的であり、農商工連携により、安全な食品の安定的な販売につながると説明した。

Domoあおもりの挑戦

(株)Domo あおもりがある青森県三沢市の近く東北町は、高齢化が進む一方、市場価格が

変動する為、農業経営が思うようにはいかず農業を辞めていく専業農家が多い。その逆風下、同社は肥料業から儲かる農業を目指し、平成17年に農業生産法人を立上げ農産物の販売に取り組んだ。栽培には自信があったが、農産物の販売には自信がないため販売のプロを雇った。最初は、青森県特別栽培農産物に取組み、安全な農産物作りを試みたが、安全の根拠がない事と農作業全般に関するルールがなく、確認・認証が甘いのには気づき、その後GAPと出会い、GGAPとJGAPを導入することにした。農政局の協力や当社のフォローで、強い農業作り交付金も活用しトレーサシステムも導入した。JGAP認証取得後は、取引関係にあったイオンに加え地元スーパー、コープ、ヨークベニマル、九州のデパート系のスーパー等、南は沖縄まで販路が広がったという。これからは、スーパーから提案のある商品企画にも取組み、更に加工にも繋げる。農産物の付加価値化で、少しでも収益アップを図っているが、ベースにあるのは農業管理がしっかりできているからだと認識している。「GAP認証取得は、自分の想いのこもった商品売り込む事と、安全・安心を通して相手方との信頼関係を築くために、絶対不可欠なものである。なぜなら、この認証は、国際基準の認証であるからです。GAP認証は農場が信頼されていることの証として最大の武器になる」と長利社長は講演をしめくくった。

MAC掲示板～人事異動 (三菱商事)～			
日付	氏名	新	旧
12/28	水野和也	(株)興人 取締役社長	三菱商事(株) 肥料ユニットマネージャー
同上	櫻井秀一	三菱商事(株) 汎用化学品本部長 兼)肥料ユニットマネージャー	三菱商事(株) 汎用化学品本部長

(有)舟形マッシュルームが農林水産大臣賞及び山形県ベストアグリ賞を受賞

山形県舟形町在の(有)舟形マッシュルームは、同社の主力商品である国産生マッシュルームの生産業者であり、当社主導にてJGAPを取得した。事業の先進性を評価され、去る11月13日(金)農林水産大臣賞及び2009年山形県ベストアグリ賞をダブル受賞した。評価された点は、【1】地域、行政や町、県をも巻き込んだ取組み【2】バイオマス利活用(日本初となる木質チップボイラーの設置)【3】JGAPで企業価値の増大【4】未利用資源の有効活用(マッシュルーム販売、Dr.マッシュ君土改材販売)【5】業務用加工にて捨てるどころ無しの5点。マッシュルームの規格外等を専用のスライサーにて裁断し、乾燥スライス、殺菌粉末、ポイル、更にはポイル煮汁も商品化している。これらは、マッシュルームに含有しているうま味成分グアニル酸が豊富で、非常に価値のある隠し味として機能する素材になっており、様々な分野で取引が行われている。特に種類の違うアミノ酸類と合体するとうま味は数十倍に跳ね上がる事が知られており、山形県新庄駅にあるジャンボマッシュルームラーメンは鳥そぼろの合体にてえもいわれぬ美味しさになっている。ハンバーグやカレーに混ぜると良い原料は更にうま味を増し、安い原料使用でも高級素材的な美味しさに変化するの極秘情報としたい。



これらの複合的な取組みが評価されベストアグリ賞の中でも最も優れている取組みと認定され、農林水産大臣賞を受賞。更には山形県ベストアグリ賞のダブル受賞を実現した。

12月になり街中がクリスマスのイルミネーションで綺麗になってきました。今年はエコを意識してか、LEDなどを使用している所が多いですね。我が家のエコは電飾を飾らないことです。

編集局長：小田原次洋 アシスタント：助川尚子

電話：03-5802-2011/E-mail：journal@mcagri.co.jp URL http://www.mcagri.jp